

## 平成16年度納涼例会



今年度の黒川代表幹事は、他分野(異業種)デザイナーやコーディネーターとの交流機械を得て建築デザインを見直し楽しみたいの方針で10月例会を大坂での開催予定となりました。そこで納涼例会は予算を縮小ということになりました。委員会で協議の結果、今年も「ケントスで踊ろう」ということで7月30日開催されました。

総勢80名弱の参加でしたが、昨年この会場で開催され、アルコールも入り、昔懐かしい曲でフロアは熱気にあふれ、大いに盛り上がりました。低予算で楽しめる会場は他にないのでは?

例会が終わり二次会に...親睦委員会も小林副委員長の行きつけの店?で反省会を...楽しい一日でした。

何かと不行き届きなんてもあったとは思いますが、会員皆様のご理解で終了できたことと感謝しています、ありがとうございます。

親睦委員長 於東 利夫

## 8月例会(地中美術館見学会)



地中美術館は今夏7月18日に開館された出来たての美術館を見学致しました。6月例会で講師をして頂いた秋元雄史氏が館長に就任された美術館です。同館は建築家「安藤忠雄」設計の真島での作品の一つです。

8月7日、当日はとても天気の良いすがすがしい見学会となりました。秋元館長と学芸員の説明を受けながら、2班に分かれて館内を案内して頂きました。「地中美術館」は名前のごとく、地面に埋め込まれた美術館です。一人の建築家と3人のアーティストによって造られた4つの空間で構成されています。入り口までのアプローチは、いつもの長い導入路を通り、少し狭い入り口から大きな空間へと導かれています。それぞれの空間は個性の強い建築家とアーティスト共同作業により造られています。それぞれの空間は、自分自身の感性により受け止め方が違います。一度は訪れて、直接これらの作品(空間を含めて)と対面することが大切かと思えます。地中カフェからの瀬戸内の島々を眺めながらひとときを過ごすのも良いものです。たぶん、黄金色に輝く夕日を眺めながら、美術観賞後にゆっくりと時間を過ごす事もこれから大切であると思えます。

参加された皆さんはどのような感想を持たれたのでしょうか。今回の見学会での写真が一枚もありません。なぜって?それは敷地内は全て写真撮影が全て禁止されておりましたからです。写真を含めた美術館の詳細情報は新建築9月号に掲載されております。ごらんあれ。

テーマ: 交流委員長 林 康友

## 事務局だより

### ■所在地変更■

(株) 菊谷建築設計事務所

〒703-8247 TEL/FAX 086-271-2567  
岡山市繰 159-6

(株) フォルム設計

〒700-0975 TEL 086-243-7709  
岡山市今4-14-10 FAX 086-244-1305

(株) ナック

〒701-1221 TEL 086-286-9800  
岡山市芳賀5322 FAX 086-286-9801

### ■社名変更■

(株) コクヨ岡山→コクヨ山陽販売(株)



岡山建築設計クラブ

■発行人 代表幹事 黒川 隆久 ■総務 広報委員会 委員長 和田 洋子  
■発行 岡山建築設計クラブ 委員 江川 治男  
■発行日 平成16年12月15日 宮脇 壽香

URL <http://www.optic.or.jp/okc/>  
E-mail [okc@optic.co.jp](mailto:okc@optic.co.jp)

Okayama Kenchiku Sekkei Club

2004 DECEMBER

# File!

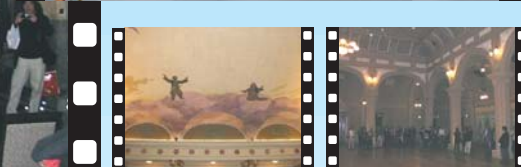
NDEX

10月例会  
ワンデーエクササイズ  
平成16年度納涼例会  
8月例会  
事務局からのお知らせ

岡山建築設計クラブ

平成16年12月

## 10月例会 其の1 (建築文化大阪ウオーク)



大型バス2台で行った10月例会は、建築・文化大阪ウオークと題して行われました。

当日は出発間際までは曇り空、あいにくの雨模様となりました。1号車は大阪通の赤澤講師による、建築文化の講義に始まり、大阪食い倒れ文化の講義、はたまた大阪お楽しみ夜の花街文化の講義で色々と為になるお話を聞きながらスタートとなりました。建築を創造するのは、建築だけを見るのではなく、色々な文化の集合体から建築が創造されるといつも思っている私として、とても楽しい例会となりました。

吹田で弁当を頂きながら昼食。そうです、吹田と言えば大阪万博でございます。「太陽の塔」も健全で、私が中学生の時に開催され、そのときに初めて見た黒人の肌の黒さに驚愕したことを、昨日のように思い出されました。狭い世界で生きていけると言うときはこんな事なのでしょう。

さて、昼食後は本題の大阪散策の旅でございます。大阪デザイナーズウィークで見学をしたり、その他自由時間を過ごしました。このような気ままな見学会も良いものです。私は、どこへ行ったかという、倉森さんに案内された大阪綿業会館から大阪市立東洋陶磁美術館を散策させて頂きました。

「綿業会館」は村野の初期に担当した建物です。古き良き時代、今では味わうことが少なくなったとても落ち着いた空間に浸ることができました。このような建物は使いながら、長生きをして頂きたいものです。

「東洋陶磁美術館」、陶磁器の歴史から作品を展示している興味深い美術館でした。陶磁器も歴史を重ねることにごつごつしたラインから流れるような端正なラインへと変遷していく事が見て取れました。中国から朝鮮半島を経由し「いまきの手人」によって日本文化も創られていったことが理解出来ます。短い時間での散策でしたので、この次はゆっくりと散策したいものです。

懇親会会場の中島公会堂は綺麗に改修され、大正期の趣ある建物です。今回の改修は、当時の華々しい頃の趣を再現するものでした。大集会堂は見学出来ませんでしたが、特別室・中集会場を施設担当者からの説明を受けながら見学することができました。懇親会での会食も楽しいひとときとして過ごせる事ができました。

懇親会終了後、ホテルチェックイン。その後は各自、夜の街へ消えていきました。夜の街の文化をしっかりと吸収してきたのでしょうか。第一日はゆっくりと終了致しました。

テーマ: 交流委員長 林 康友